

球磨川治水対策協議会
第3回 整備局長・知事・市町村長会議
参考資料

平成30年3月28日

国土交通省 九州地方整備局
熊 本 県

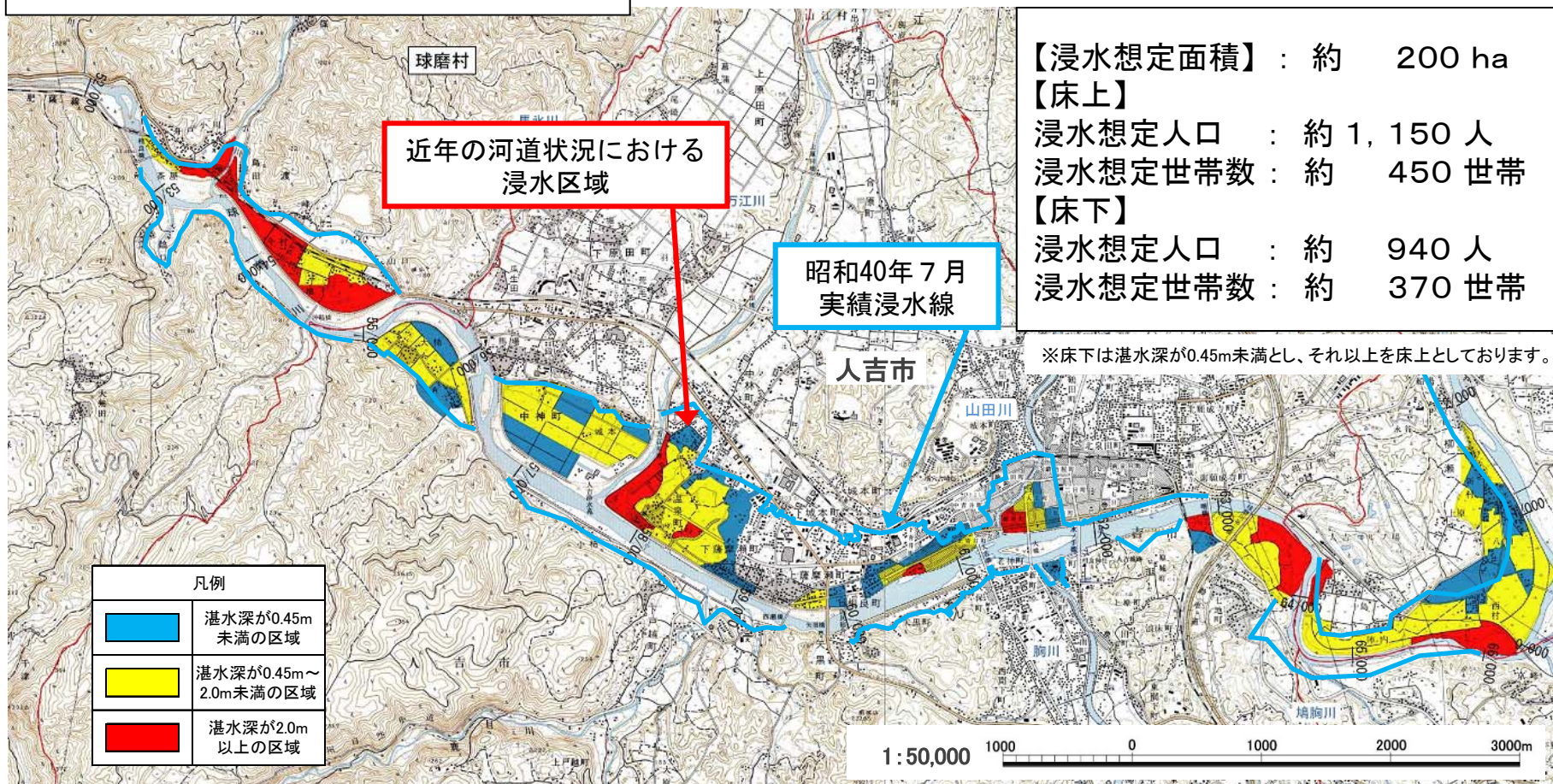
昭和40年7月洪水 浸水図(人吉地区周辺)

○河川整備の進捗により、近年の河道状況で昭和40年7月洪水が発生した場合には、想定される浸水範囲は当時の実績と比較して小さくなるものの、依然として人吉市街地は浸水する。

■昭和40年7月降雨によるシミュレーション

近年の河道状況

【浸水が想定される人吉市内の人口等】



※地形や家屋敷高などの条件を氾濫想定区域、浸水想定人口及び世帯数の算出に反映させるには限界があるため、実態と異なる場合もあります。

※内水被害が想定されますが、今回のシミュレーションでは内水被害は考慮していません。

※破堤地点は流下能力の低い地点とし、浸水範囲の資産状況を考慮して、氾濫ブロックごとに最低1箇所設定しています。

※球磨川水系の直轄管理区間沿川の家屋集落部を対象としてシミュレーションを実施しているため、支川やその他の箇所の浸水状況については、表示していない部分があります。

※浸水想定世帯数及び人口は、ゼンリン住宅地図及び平成22年国勢調査結果に基づき算出。

球磨川流域内における水害タイムラインの検討状況

■人吉市・球磨村における検討状況

○タイムライン検討会発足式(平成27年6月24日)



○第1回タイムライン検討会(平成27年7月31日)
～第6回タイムライン検討会(平成28年5月17、19日)



○平成28年球磨川水害タイムライン完成式(平成28年6月2日)



以降、タイムラインの運用、ふりかえり、改善のPDCAの取組を継続して実施中

検討着手から
試行運用版の
完成まで

■八代市における検討状況

○タイムライン検討会発足式(平成29年7月24日)



○第1回タイムライン検討会(平成29年7月24日)
～第3回タイムライン検討会(平成29年12月19日)



平成30年出水期までの試行運用版完成を目標とし検討を継続中

タイムラインの
骨子となる
防災行動項目の
洗い出しを実施

【人吉市・球磨村】平成29年出水期に備えた訓練の実施

- 人吉市、球磨村、消防団や地域の方々、関係機関、国、県が参加し、平成29年の出水期に備え検討会を開催しました。（平成29年6月7日）
- 検討会開催時には既に九州北部地方が梅雨入り（6月6日）したことを受け、検討会の中で関係者一同合意のもと「ステージ0」から「ステージ1」に変更することが決定されました。
- 平成29年度からの本運用に向け、あらためて気象情報の見方や運用方法（H29より新たに「運用の手引き」を作成）について確認し、試行運用を踏まえ改善したタイムラインを使って、模擬訓練を実施しました。

1 気象情報の見方について学び、早め早めの対応に活用



昨年度（平成28年度）に試行運用を実施しましたが、今年度4月の人事異動等で初めてこの検討会に出席された方もいらっしゃいました。また、気象庁から提供される気象警報・注意報などの防災情報については、今年度より「より見やすく！」「より分かりやすく！」ということで変更になりました。

そのため、熊本地方気象台より提供された資料を参考に、参加者全員で気象情報に関する知識の習得を行いました。

この検討会では、村中アドバイザー（元気象庁予報課長）より分かりやすい説明で補足いただき、気象情報の活用について参加者の理解が深まりました。

2 『梅雨前線性降雨対応版』を用いて模擬訓練を実施



昨年度のふりかえり会議での反省点を踏まえ、今年度はタイムラインの運用に関する手引きを作成し、タイムラインの運用方法（ステージ変更基準やタイムライン表の見方、メーリングリストやテレビ会議の運用、ふりかえりの手順など）について参加者で共有しました。

その後、昨年度のふりかえり会議の結果を反映し、改善した『梅雨前線性降雨対応版』を用いて、模擬訓練を実施しました。模擬訓練では、該当する部署が役割を示す“◎”や“○”の札を挙げることで役割を確認し、問題点等について意見交換を行いました。

この模擬訓練によりお互いの防災行動を確認することができ、出水に備える準備とともに、タイムラインをより実用的なものに作り上げていくための検討ができました。

【八代市】ワークショップ形式のタイムライン検討に着手

- タイムライン作成に向け、まずは災害時に“住民の避難”への対応を行う自治体担当者出席のもと第2回検討会を開催し、ワークショップ形式により「水害が発生した際のリスク」や「水害時の防災行動」について議論しました。（平成29年11月22日）
- 災害時に防災対応をする自治体担当者が一堂に集まり「水害が発生した時にどのような状況になるのか」「どのような対応をとる必要があるのか」などについて議論したことで、異なる部署の対応も含め、お互いの防災対応を確認し、タイムラインを具体的に作り上げていく検討を開始しました。

球磨川の水害リスクを学ぶ



多くの方が、この検討会に初めての参加だったことから、八代市における球磨川の水害リスクについて八代河川国道事務所より説明しました。

水害発生時に想定されるリスクは？



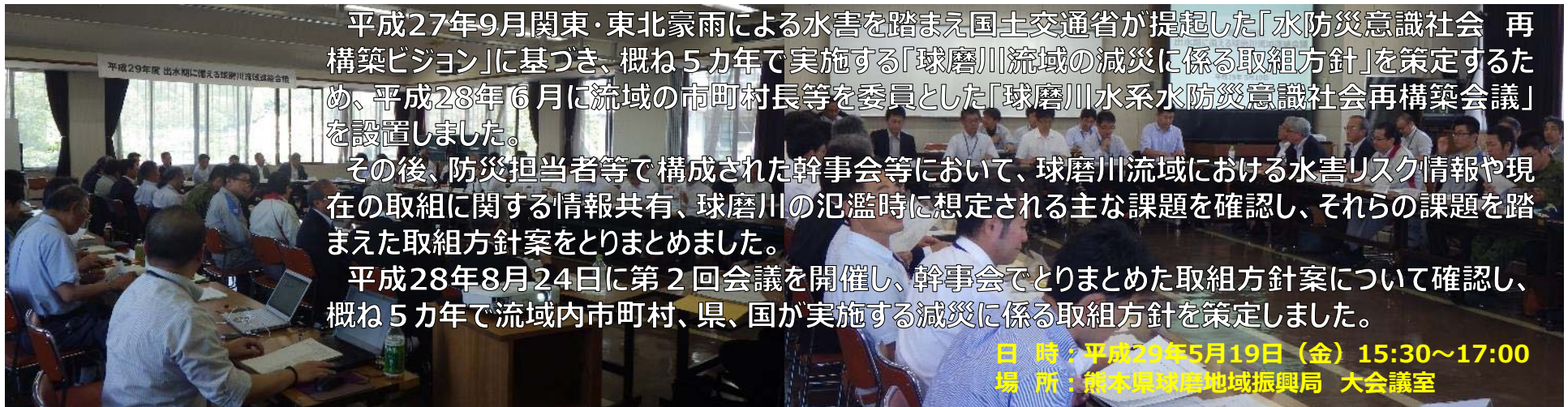
異なる部署の担当で班編成をし、球磨川で水害が発生した際に想定されるリスクについて、班ごとに議論し、付箋紙に書き出しました。付箋紙はグループごとに仕分けし、次の議論へのウォーミングアップは完了です。

想定されるリスクに対応する行動は？

担当部署ごとに班編成し、想定されるリスクに対応する防災行動を議論しました。議論した結果は全体で共有しました。



第3回 球磨川水系水防災意識社会再構築会議



平成27年9月関東・東北豪雨による水害を踏まえ国土交通省が提起した「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき、概ね5カ年で実施する「球磨川流域の減災に係る取組方針」を策定するため、平成28年6月に流域の市町村長等を委員とした「球磨川水系水防災意識社会再構築会議」を設置しました。

その後、防災担当者等で構成された幹事会等において、球磨川流域における水害リスク情報や現在の取組に関する情報共有、球磨川の氾濫時に想定される主な課題を確認し、それらの課題を踏まえた取組方針案をとりまとめました。

平成28年8月24日に第2回会議を開催し、幹事会でとりまとめた取組方針案について確認し、概ね5カ年で流域内市町村、県、国が実施する減災に係る取組方針を策定しました。

日 時：平成29年5月19日（金）15:30～17:00
場 所：熊本県球磨地域振興局 大会議室

出水期に備える球磨川流域連絡会議

今年度は、球磨川流域の防災に携わる関係機関の方々に一堂に集まっていただき、「平成29年度 出水期に備える球磨川流域連絡会議」における議題のひとつとして「第3回 球磨川水系水防災意識社会再構築会議」を開催しました（例年開催する「球磨川水防連絡会・洪水予報連絡会」と一体的に開催）。主な議題として、

- ・ 水災害に関するトピックス
- ・ 危険箇所・重要水防箇所
- ・ 平成29年度の気象概況等
- ・ 水ビジョン「取組方針」進捗と今後の進め方
- ・ 球磨川水害タイムラインの検討状況報告
- ・ 球磨川流域タイムライン

について報告・説明等を行いました。

この会議をふまえ、球磨川流域の関係機関で協力して出水期に備えます。

意見等の概要

- ・ 平成28年度の関係機関における取組について報告しました。
- ・ 平成29年度も幹事会を開催し、引続き取組を進めていくことが了承されました。



人吉市長

『フォローアップとして取組の進捗を確認し、更なる取組の推進につなげていければと考えている。また、取組の推進にあたっては、本日の議論を踏まえ、幹事会の場で具体的な検討を進めていただきたい。本日の会議を通して流域の市町村の間で相互の情報を共有し、参考にしつつ連携することで流域の防災対策が充実していったらいい。』

平成27年12月の水防災意識社会再構築ビジョンの策定を牽引された、（公財）リバーフロント研究所代表理事 金尾健司氏にご出席いただきました。

『被災地で必ず聞く言葉は「まさか自分のところでこんな大きな災害にあうとは思わなかった。事前の準備をしておけばよかった」であった。そういった意味で、必要な準備を前もって行うことは非常に重要である。』



金尾健司氏

[問合せ先]

国土交通省 九州地方整備局 八代河川国道事務所 調査課
〒866-0831 八代市萩原町1丁目708-2、電話0965-32-4135（代表）

球磨川防災フォーラム「いつか来る大水害を乗り越える」を開催

- 球磨川では、平成29年3月29日に想定最大規模の洪水浸水想定区域を公表し、災害リスク情報の周知の観点から、新しい取組として水防災意識社会の再構築に向け、5月20日に人吉市にて防災フォーラムを開催しました。
- 全国各地で発生する大水害の状況や、球磨川の水害リスクを共有し、パネルディスカッションで有識者、首長、気象キャスターの各立場から必要な備えに関して議論されました。

1 基調講演「水防災意識社会の構築に向けて」



(公財)リバーフロント研究所の金尾代表理事より、全国各地で発生している大水害の状況をご説明頂き、水防災意識社会を構築する上で行政、住民、企業等の各主体に求められる対応課題について講演を頂きました。

2 情報提供「球磨川の水害リスクについて」



八代河川国道事務所からは、球磨川の災害リスクとして、過去の水害、想定最大規模の洪水浸水想定区域を説明し、避難等に活用できる情報について紹介を行いました。

3 パネルディスカッション「いつか来る大水害を乗り越える」

パネルディスカッションでは、登壇者の各立場から、課題と対応を発言頂き、色紙にて会場にメッセージを頂きました。



水防災タイムラインカンファレンス2018 in 球磨川 を開催

- 平成30年2月7～9日の日程で、タイムラインに関する取組事例の報告やワークショップ、取組を牽引する市町村長等によるパネルディスカッションなどを盛り込んだ「水防災タイムラインカンファレンス2018 in 球磨川」を開催
- 水害タイムラインの先進地の自治体が一堂に集まり、現状の取組や課題を議論
- 3日目（2/9）のシンポジウムでは、全国各地から首長（9名）が参加したパネルディスカッションが行われ、導入の意義や運用等について意見交換を実施。
- 最後に「情報交換のネットワークづくり」、「命の守るソフト対策の充実を図る」などを示した、球磨川宣言を採択。

開催概要

- 開催日時 平成30年2月7日（水）～9日（金）
（2月9日 一般参加のシンポジウム）
- 実施場所 球磨村石の交流館・人吉市カルチャーパレス
- 共催 熊本県人吉市、球磨村
NPO環境防災総合政策研究機構
- 後援 国土交通省
- 実施内容 ワークショップ、基調講演、パネルディスカッション等
- 参加者 約200名

2/7 ~2/8

先進自治体の実務担当者等
の参加による意見交換等



ワークショップ



話題提供 竹島河川部長

2/9 シンポジウム（一般参加）

基調講演



東京大学大学院
情報学環
松尾客員教授

パネルディスカッション



（1部：コーディネーター松尾客員教授、パネリスト左から）
川上平取町長(北海道)、西田紀宝町長(三重県)、
岩崎大豊町長(高知県)、柳詰球磨村長(熊本県)、
弟子丸福岡管区気象台長、員名八代河川国道事務所長



（2部：コーディネーター山崎教授、パネリスト左から）
松岡人吉市長(熊本県)、宮本諫早市長(長崎県)、
藤原貝塚市長(大阪府)、古川多治見市長(岐阜県)、
前田滝川市長(北海道)、竹島河川部長



国土交通省 河川環境課
宮本企画専門官



山崎国土館大学教授
(元NHK解説委員)

球磨川宣言

